

やさしい自然派住宅の
つくりかた

そざい Sozai Note のーと

vol. 06

文・西條 正幸 エコ空間デザイナー

北海道伊達市出身。
自然と人にやさしい建築デザインを専門とし、
建築デザイン事務所ピオプラス西條デザインを主宰。
オーガニックな暮らしをライフワークに、
仲間との有機農園やマーケットの運営、
講演会やワークショップなども企画、開催している。

オーガニックでナチュラルな暮らしを求めることは、今やブームとなりつつあります。食の安全と健康は、直接生活と密着する最も気になる話題ですね。近年では米や野菜のほか、加工食品・菓子からお茶・お酒まで無農薬有機栽培

のものが簡単に手に入るようになりました。僕は無農薬米で仕込んだお酒やオーガニックワインなど、お気に入りのお酒を見つけた時は、とても嬉しくなります。とは言え、趣味の有機農園で野菜作りを楽しんだとしても、自給自足

的な田舎暮らしが出来る訳でもなく、せめて毎日を気持ちよく暮らしたいと思うのです。こんな自分のこだわりは、体に負荷をかけず地球の環境にも迷惑をかけないエコな暮らしだったりします。

エコロジー建築の概念では、家をつくるときには木をたくさん使用して木質化を図ります。エコロジー素材として最も優れた木は、生産から廃棄にいたるまで環境負荷が少ない環境循環資源だからです。木の利用率のうち約半分は、建築・家具用として利用されています。もっとたく

北海道スタイルで ナチュラルな 住まいに暮らす



さん木を使って家をつくる。といってもログハウスのように丸太を組むだけではなく、日本の伝統でもある木組みで家を建てても、木質化を図る事は出来ます。木板で外壁を仕上げ、内装の床や天井などにも木を積極的に使います。さらにパルプが原料の新聞古紙をリサイクルしたセルロース断熱材や、間伐材や木の皮を細かく繊維状にした木質繊維の断熱材を使う。たっぷりの木に包まれて、心も体も暖かになります。

ナチュラルな室内のデザインは、自然素材の土や草などを原料にした材料を組み合わせた素材を上手く使います。道北産珪藻土やニセコの火山灰、噴火湾のホタテ貝殻、浦河の石灰、仁木町のゼオライトなどを漆喰仕上げに利用。木材は北海道産無垢の木だけを使い、断熱材も木質原料です。また、江別のレンガや珪藻土タイル、札幌軟石などをアクセントに使用します。

それはもう、家のほとんどが北海道産自然素材に包まれた、なんとも贅沢な空間が出来あがります。デザイナーの僕としては、オーガニック食材を探すように、ナチュラルな建材を探すのは結構楽しいものなのです。新しい素材に出会った時の喜びは格別です。素材選びのポイントをひと口で言うなら、出来るだけシンプルな自然素材を選ぶことです。

材料と簡単な道具さえあれば自分でも作れてしまうような、単純で、あまり手のかからない素材を探してひと工夫する。そして木の塗装や塗り壁仕上げなど、内装仕上げの施工に参加するのも楽しいものです。なによりも、ここで得られる我が家に対する愛着と満足感は、一生捨てがたいものになります。ナチュラルな自然素材の良さを五感で感じる暮らし、お勧めしたいですね。